

令和5年度 学校安全優良校推薦資料

推薦者名称

長久手市教育委員会 教育長 大澤 孝明

【推薦理由】

日々の様々な学校教育活動において、安全・安心して学校生活を送ることができるように、SDGsの視点に立ち、教職員と生徒が一丸となって安全教育や防災対策、アレルギー対応等に取り組んでいるとともに、家庭や地域と連携しながら、命の学習や避難所開設など様々な取組をしている。長久手市教育委員会としては、学校安全優良校として適切であると認める。

ふりがな 学校(園)名	ながくてしりつきたちゅうがっこう 長久手市立北中学校		
所在地	〒480-1181 愛知県長久手市東原 80-1		
ふりがな 校(園)長名	おかやま まさたか 岡山 真崇	電話番号	0561-64-2366
メールアドレス	njkibuns@nagakute-aichi.ed.jp	ファックス番号	0561-61-3530

1 学校(園)の概要 (人数及び学級数は、令和5年5月1日現在)

教職員数	49人				
学級数	23学級				
幼児児童 生徒数	683人				
管理下の 重大事故		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	死亡事故	0件	0件	0件	0件
	障害事故	0件	0件	0件	0件
過去の 表彰受賞歴	なし				

2 学校安全に関する特色ある取組や研究実践

(1) SDGs の視点から取り組む生徒の主体的な活動

本校は、「SDGs を地球規模で考えることができる生徒の育成」を重点目標として掲げている。生徒会を中心に学校全体で SDGs の普及活動やその達成のために自分たちにできることは何かを考え、各委員会が日々活動している。

特に、昨年度新設した安全委員会では、SDGs の「11 住み続けられるまちづくりを」から安全な学校生活や防災のためにできることを生徒同士で話し合い、学校全体で取り組めるような活動を計画して実践している。



・ 右側通行の習慣化を目指す活動

校内の安全に対する取組として、廊下の右側通行の定着を目的とした「右側こそ正義」運動を行った。内容はタブレット端末を用いて制作した啓発動画の放送と、昼休みを利用した廊下での呼びかけである。啓発動画については、安全委員でどのような内容なら廊下の右側歩行の重要性を全校生徒に伝えられるか意見を出し合い、寸劇や音楽を効果的に取り入れた分かりやすい動画を制作した。廊下での呼びかけについては、ただ呼びかけるだけでなく、安全委員一人一人が工夫して制作したさまざまな道具（ポスターや被り物など）を用いて行った。動画と呼びかけの効果は大きく、活動中はほとんどの生徒が右側通行を意識して歩行していた。

・ 安全な登下校を促す活動

校外の安全に対する取組として、安全な登下校を促す活動を行った。前述の「右側こそ正義」運動と同様に動画放送と下校時の呼びかけによって全校生徒の登下校の安全に対する意識改革を図った。生徒手作りの動画はシンプルかつ温かみのあるものに仕上がりに、給食中でありながら多くの生徒が見入っていた。下校時の呼びかけ運動もあいまって、北中生の登下校の安全に対する意識をより高めることができた。

(2) 避難訓練における ICT 機器を活用した事前指導

本校ではタブレット端末をはじめとする ICT 機器の有効な活用方法を全職員で確立するために、ICT 活用推進教師を中心にさまざまな授業研究が行われている。ICT 機器の活用は学校安全に対しても広がり、特に避難訓練では、ICT 機器を活用することで生徒の防災に対する理解を効果的に深めさせる一助となっている。

・ 避難方法の確認

避難訓練の事前指導として、各学級の担任から避難経路の確認、一次避難・二次避難の方法の確認を行った。その際にそれぞれの内容を表したスライドを教室のテレビに映し出し、避難方法が視覚的にも理解できるようにした。

・ 危険箇所の話し合い

避難訓練の事前指導として、各学級で「災害時における校舎内の危険箇所はどこか」についての話し合いを行った。生徒のタブレット端末に校舎内の見取り図を配付し、一人一人が危険だと思う場所に印を付け、その結果を学級で共有し、「どこがなぜ危険になるのか」について意見を交換し合うことで理解を深めた。

3 学校安全に関する取組

(1) 安全教育について

・分団下校

有事の際に集団で下校することを想定して、分団下校訓練を毎年4月に行っている。非常時に安全に家まで帰る方法の確認を主な目的としているが、その他にも担当教員や分団長の生徒を中心に、通学路の危険箇所の調査を行ったり、同じ方面に帰る生徒の顔合わせや通学路の共通認識をさせたりすることで、登下校の交通安全意識の高揚を図る大切な機会としている。

・避難訓練

学期に数回、定期的に避難訓練を実施している。火災や地震だけでなく、不審者を想定した訓練も行い、その時々に応じた避難行動を毎回の事前指導で確認している。また、抜き打ちでの実施や授業時の活動場所に応じた避難場所を設定するなど、想定される状況を見直しながら訓練を繰り返している。訓練後は必ず各学級で事後指導（自己反省）を行い、避難時における自分の行動を振り返ることで、実践力の向上や課題意識をもつことにつなげている。

・防災授業の充実

家庭科の授業では、教科の発展的な内容として防災学習に力を入れている。災害時を想定して、米や麺類といった家庭に備蓄されている食材と、調理用ポリ袋を用いた簡単な調理方法でできる調理実習や、避難所運営ゲームHUGの実習を通して、災害避難時の環境を想像させたり、災害避難時に必要な力を身に付けさせたりしている。

・セルフディフェンス講座

毎年1年生を対象に行うセルフディフェンス講座では、犯罪やいじめから自分を守るために必要な技能や知識を学んでいる。友だちの誘いに対する上手な断り方や、不審者から襲われた際の簡単な護身術などを学んだ後、実際に生徒同士で話し合ったりロールプレイをしたりしながら、インターネットやSNSも含めたさまざまな危険から自分自身を守る力を育てている。

・ケータイスマホ安全教室

NTTドコモの協力のもと、毎年1年生を対象に携帯電話やスマートフォンの安全な使い方についての出前授業を行っている。情報技術との上手なつきあい方や、実際にどのような危険や課題があるかについて学んだ。また、身近に起こりうる犯罪について、自分だったらどう対応するかをグループで話し合うことで、自分の課題点に気付くことができ、情報機器の安全な活用方法への理解を深めている。

(2) 安全管理について

・食物アレルギーシミュレーション研修会

各学年で、教師役、傷病者役、その他の生徒役などを分担して、実際に学年に所属する生徒がアナフィラキシーを起こした場面を設定・実演し、教職員全体で反省点を共有することで、食物アレルギーによって生徒が倒れた場合の対応について確認・改善を行っている。定期的にこのようなシミュレーションを行うことで、緊急時に落ち着いて的確に対応できるように研修を繰り返している。

(3) 家庭・地域等との連携について

- ・救命救急講習

毎年4月に近隣の消防署の方々を講師として招き、教員を対象に救命救急講習を行っている。傷病者に対する初期対応からAEDの使用に至るまでの確な対応の練習・確認を行っている。毎年行っていることでありながら、毎年多くの質問が教員側から出され、活発な講習会となっている。

- ・避難所運営ゲームHUGの研修

実際に本校が避難所になった場合に的確な対応ができるよう、避難所運営ゲームHUGを教員で小グループに分かれて行った。まず、長久手市の災害マップの内容から、どのような人が避難所を利用するのかを話し合った。次に、本校の体育館の見取り図を利用して避難所の設営から傷病者の対応までグループごとに話し合いながらゲームを進めた。また、避難所運営の過程で発生した問題点や疑問点を他のグループと共有し、解決方法を話し合っって実際に学校が避難所になった場合に必要と考え方や対応策について理解を深めた。

- ・熱中症対策講座

昨今の学校管理下における熱中症による事故を防止するために、大塚製薬の方を招いて教員を対象に熱中症対策講座を行った。子どもの体温調節に関する基礎知識や効果的な水分補給の方法など、熱中症予防のために必要な知識だけでなく、万が一発症してしまった場合の救急処置についても詳しく学び、熱中症から子どもの命を守る方法について理解を深めた。

- ・下校指導

生徒が安全に登下校できるよう、学期に数回、定期的に教員による下校指導・学区巡視を行っている。複数名のグループで学区内を手分けして巡回・巡視する中で、生徒の下校の様子を観察し必要に応じてその場で直接指導したり、危険箇所の点検をしたりするなど、生徒が安全に登下校できるよう改善に努めている。

- ・避難所開設訓練

市が行った小学校区ごとの避難所開設訓練に、本校の教員が学校代表として参加した。市の職員や地域住民と共に避難所設営の手順を確認した後、役割分担をして受付役と避難者役に分かれ、避難者受け入れのシミュレーションを行った。また、コロナ禍ということもあり、感染拡大防止にも配慮しながらの対応が必要ということもあり、避難所の円滑な運営のためには、さまざまな立場の人たちとの協力やコミュニケーションが必要だということを改めて学んだ。

(4) その他特筆すべき内容

- ・安全委員会の活動

昨年度より、北中生の安全・安心な学校生活を実現するために生徒主体の活動を行っている。当初の活動では、「学校生活で危険だと思った場面はあるか」、「安全な学校生活を実現するために、私たちにできることは何か」について話し合い、多くの活動案が生徒から提案された。これまでに、前述の取組の他に、校内安全点検を定期的に行った。今後は、タブレット端末を活用した通学路安全マップの制作や、安全・安心な学校生活のための月目標の設定などに取り組んでいく。